

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘		
事業所名	グループホーム 都筑の丘		
所在地	(〒224-0057) 神奈川県横浜市都筑区川和町1705		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	平成25年1月17日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月15日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

G H都筑の丘の入居者様、ご家族が安心して穏やかな生活が過ごせることを目標としています。職員が常に入居者様の思いに添えるよう努力をしています。職員も健康的で前向きな姿勢で働ける環境を作っています。自然に恵まれた環境の中で四季の移るいを五感で感じられるように努力しています。認知症と加齢により身体の機能が低下しないように、散歩もリハビリ的な歩行を目的としたものと、楽しい散歩とわけて1日に二回は行っています。川和町の町民として地域の皆様からも違和感なく受け入れていただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年2月26日	評価機関 評価決定日	平成26年4月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は、横浜市営地下鉄川和町駅から徒歩10分程にある。富士山も見える豊かな自然環境の中、2000坪もの「都筑の丘」が立ち、敷地内には梅、桜、はなももなど四季折々の花が咲き、木々や畑、花壇がある。庭には椅子があちこちに設置され、利用者がいつでも休むことができる。各部屋から四季の花が眺められる。 【五感を刺激する能力開発】 理念の一つである「五感を刺激し、個人の能力が発揮できるように支援します」に基づき、週2回午前中「燦々会」が日課として催され、車いすの方も含め、3棟の方全員が参加する。内容は機能向上を目指した訓練、ゲーム、ラジオ体操第一、第二などである。散歩は毎日午前と午後に行っている。事業所の周りは歩きやすい遊歩道になっているので、花、樹木、外の景色や臭いで五感が刺激される。管理者は職員にも五感を研ぎ澄ました豊かな介護力について話し、求めている。 【支援具体化のための努力】 ワーカー会議とケース会議を毎月同時に開催し、職員は原則全員参加する。ワーカー会議では職員に事前に利用者一人ひとりについて、気づいた点、問題点、課題、改善点、要望、希望、提案などを自由に書いて提出してもらい、それらを整理した上で、議論を深めている。職員と管理者の連携が強まり職員に笑顔が生まれる。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき棟・やまぶき棟・あじさい棟

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に5つの理念を明記し確認できるようにしている。職員には5つの中から自分が好きな理念をひとつあげそれを目標として達成できるように努力しその成果を発表している。	理念は事務所などに掲示し毎週月曜日に唱和している。各自名刺の裏にも記入され常に確認できる体制になっている。五感をフルに活用することが大切で、まずは職員が季節感を感じるなど五感を磨くことを心掛けている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様が常に見守ってくださり、時には厳しいお叱り、注意をいただくこともあります。ありがたく受け止めています。昨年は町内会の芸能祭に声がかかり参加させていただき、好評でした。参加した職員は今年も参加したいとはりきっています。	自治会に加入している。散歩時には地域の方から花や柿、柚子などを頂いている。地域の夏祭りや芸能祭では専用席が用意されている。職員は「都筑の丘」の法被を着て参加し、理事長は焼きそば、もつ鍋などを購入し利用者や職員の夕食として地域に貢献している。保育園児ともイモ掘りやタケノコ狩りなどで交流し、中学生の職業体験も受け入れ、仕事の楽しさや認知症の理解を得ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	川和小学校の認知症サポーターの講師、近隣の中学校の職場体験、ホームヘルパー2級の養成研修の実習生の受け入れ、夏休みのボランティア体験の受け入れをしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議とホームのイベントを同日にし、委員の皆さんにも参加していただくことにより、より一層のご理解、ご協力をいただけることになりサービス、質の向上に活かされている。	3~4ヶ月に1回実施している。参加メンバーは家族、民生委員、婦人会長、ボランティア代表、地域包括支援センター職員、理事長、副理事長、管理者が参加しており、日頃から連携している。行事と同時に開催することもあり、多くの家族が参加している。外部評価についても報告している。避難訓練や行事の時期などについての問い合わせがある。	今後は事業所の支援内容や認知症に対する更なる理解などの情報を積極的に地域に発信する場所としてこの会議を有効活用されるとともに、参加メンバーの再確認や開催頻度について検討されることが期待されます。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修、勉強会にも積極的に参加し、区役所主催の認知症サポーター連絡会、認知症フォーラムのスタッフとして活動している。	区高齢者支援課と連携している。「認知症サポーター会議」に毎月管理者が出席し、情報交換している。生活保護者の相談で保護課とも連携している。認知症フォーラムのスタッフとしても活動している。市のグループホーム連絡会に参加して他の事業所と情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしないという前提でケアを行っている。玄関の施錠に関しては周囲の環境、認知症であるが故必要な方法であることをご家族に入居時に説明してご理解頂いている。</p>	<p>身体拘束しない研修を実施している。開設当初は玄関を開放していたが、不意の外出が続き家族の了解を得て玄関を施錠している。外出したい方には職員が個別対応している。精神的な拘束についても接遇研修を実施して、「大切にされている」と思うようなおもてなしをすることが大切であり、言葉遣い、大きな声を出さない、笑顔の重要性などを確認している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>肉体的なものだけではなく、精神的な虐待（特に言葉の暴力）は絶対に行ってはいけないことを徹底している。職員同士で異常が見られたらすぐに報告、原因究明をするようにしている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は自立支援の重要性を理解しており、日々実践している。権利擁護に関しては地域の住民の為の勉強会を企画し職員も参加したことがある。成年後見人の必要性は理解している。制度を利用されている方もいた。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）をわかりやすく説明し、納得していただき同意を得て契約している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部評価のアンケートの回答を全職員に見せて、改善すべき点は早急に検討し実行している。ご家族が来棟された時、ホーム長が近況報告をしながらお話を伺っている。場合によっては管理者が対応している。</p>	<p>外部評価の家族アンケート結果を100%満足にすることを目指している。ユニット単位で話し合い、直すべきところは即、直している。利用者の毎日入浴したいとの要望などには対応している。「おやつを多めに食べさせてほしい」「携帯電話を持たせてほしい」など入居時の要望については、個別面談をして事業所の考えを説明している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のワーカー会議で出た問題点、要望案などはすぐにその後の全体会議で検討、改善している。各行事の実行委員による反省会で出されたことは来年度に反映されている。	毎月のワーカー会議で職員の意見を聞いている。業務の基準が3棟で違うのでユニット単位で収集している。運動会での玉入れを小学校で使用しているものに変えたり、餅つきを男子職員のみでなく家族についてももらうなどの職員意見を採用した。家族に餅をついてもらうことにより自然な会話ができるようになった。細かいマネジメントができる体制ができている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の持っている能力、実績、貢献度などを公平に見極め、職員が向上心を持って安心して働けるよう努力している。介護職員処遇改善交付金も申請している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員の受験時も便宜を図っている。社内研修は全職員が参加できるように日程を組んでいる。社外研修にも多くの職員が参加できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川高齢者認知症グループホーム協議会に加入し複数連携事業にも参加し交流をしている。都筑区の認知症サポーターとして活動している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に作って頂いたアセスメントをもとにしながらお話をする。入居初期は緊張や不安が多く、職員だけではなく、他入居者にも協力して対応している。帰宅願望は自然のことであると理解し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居者さんに対するの思い、ホームに対する希望など遠慮なく言える雰囲気を作り、ご家族が安心して頂ける環境を作っている。納得出来るまで見学相談をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の不安な気持ちを理解し、あせらずに根気よく対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人の入居者と職員が下宿屋さんのように暮らせることが理想。それぞれの得意分野を職員が把握し協働している。時にはトラブルも発生するが、それも日常生活と捉えている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはいつでも、気軽に来て頂ける様にしている。家族と職員が協力しあうことが入居者さんの安心と安定に繋がると思って援助している。ご家族に安心していただくこともケアと考えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過された環境を大切に、家族、友人の訪問、外出はとても良いことだと思っている。	友人の訪問、外出がある。居室で昼食を食べて帰る友人もいる。家族が馴染みの美容院に連れて行くことがあり、墓参りや結婚式、法事に連れて行くこともある。訪問美容を利用する方も多し。絵手紙のあて名書きの代行もしている。契約時に家族に親子関係の大切さを良く説明し、都合の良い時に来訪されることをお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人を職員が常に視野にいれている。仲良し同士で入浴したり、遅くまで訪室しおしゃべりをしていることはとても良いことだと思っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階では該当するケースはありません。今後必要なケースが出現した場合は相談、支援していきたいと思えます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族、ご本人の思いを大切に、個別ケアを大切にしている。感情の表出ができない方は思いをくみ取る努力し、効果がでている。病状などを考えながら。	アセスメントや日常のケアの中で把握に努めている。感情の表出ができない方については顔の表情や態度で確認している。ワーカー会議では「私の気持シート」を基本に利用者の好みを重視し、個別に対応している。職員は常に観察を重ね「なぜそうなったのか」の原因を追及している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	体験入居時に幼少時から現代までの状況をご家族と一緒にアセスメントを行い、職員も良く理解し、今後のケアに反映させている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態は毎日報告書としてパソコンに入力し出勤した職員は必ず目を通し業務に入っている。一人一人の得意なことをお手伝いしていただいております職員は助かっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月ケース会議を行い職員は入居者一人ひとりのケアプランを理解したうえで援助目標が達成できるように支援している。本人の気持ち、ご家族、医療関係との連携を密にとりながら、情報の共有をしている。</p>	<p>ワーカー会議とケース会議を毎月同時に開催し、職員はできる限り参加している。あらかじめ提案用紙を書いてもらい、ホーム長がまとめて会議を進行する。その都度職員はホーム長や管理者に意見を言っている。介護計画は6ヶ月に1回、変化がある時はその都度見直している。医師には往診時に相談し、家族には来訪時に要望を聞いている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の業務日誌、ご家族に送付している報告書、職員間の連絡ノートに重要事項を記入し、入居者の日々の変化を共有しながらケアプランに反映させている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療機関との連携、地域の婦人会、地域の消防団、保育園、中学校、地域包括センターなど多くの協力を得て多機能化に取り組んでいる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>書道、絵手紙、音楽療法、園芸療法、マジック、納涼祭、餅つき、囲碁などの地域ボランティアの方たちのご協力、ご近所の方たち見守り助言などを頂きながら安全で豊かな生活が送れるように支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>掛かり付け医（内科・整形外科・歯科）による、定期的な往診。急変時の対応に職員やご家族も安心している。</p>	<p>かかりつけ医は2週に1回往診がある。選択は家族の希望にあわせているが、従来のかかりつけ医から協力医に変わる方が多い。歯科は入居時受診があり、毎週1回往診がある。訪問看護師の訪問もある。看護師は電話での相談に応じてくれる。精神科、耳鼻科、眼科は家族が対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>掛かり付け医の看護職員と往診・受診の時に相談ができるようにしている。電話での相談もいつでも快く対応してくれている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>大きな医療機関は現状では家族でないと情報をもらえないので、ご家族との連携を密にとりご家族から情報を提供して頂きながら退院後の生活を考える。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した時、ワーカー会議で職員がどこまでケアできるかを話し合い、掛かり付け医、ご家族と相談しながら特別養護老人ホーム、ケア付き有料老人ホームへの入所に繋げている。終末期の対応も取り組んでいきたいと思っている。</p>	<p>事業所としては、看取らないということではなく、医療行為ができないことなどを契約時に書面に沿って説明している。主治医と家族の意見をその都度確認して対応していくこととしている。ぎりぎりまで介護して、救急車で病院に搬送し、その日に亡くなられた方がいた。家族の要望も確認し、できる限りのことはしており、家族から感謝の言葉も頂いている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>社内研修で応急手当の訓練を行っている。また、救急マニュアルを緊急時すぐに見ることが出来るようにしている。事故が発生した時はそれを教訓として事例検討している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震発生による火災を想定した避難訓練や地域の消防団の協力による独自の消防訓練を行っている。</p>	<p>地元の消防団のホース2本を持っており、初期消火箱の鍵も持っている。人命第一を優先して、夜間想定訓練を実施している。各棟夜間は職員が1名なので地域の方の応援をいただく体制ができています。ご近所の方はロープを張って利用者の見守りをしてくださいました。夜間の緊急連絡網の訓練も実施した。3・11の地震の時には、地域の商店の協力を頂いた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年4月に接遇研修を行い、笑顔の重要性、言葉遣い、所作、態度などを学んでいる。日々のケアの中で気付いたことは、その場で職員同志で注意をしている。	言葉遣いについては十分留意していて、現場で職員同士が注意し合っている。利用者に「ここに来てよかった」と言われるように支援している。プライバシーについては特に排泄失敗時に、周りに気づかれないように手際よく処理している。バスでの外出時の失敗に、他の利用者がそっと窓を開けてくれた。お互いを思いやる精神が行き届いている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちが表示できるような環境、雰囲気を作っている。散歩、レクリエーションなどの参加も自由で入浴時間なども希望の時間にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を優先して一人ひとりのペースを大切にしている。一日のスケジュールは特に決めず、天気、入居者の希望を優先している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で決めて頂いている。できない方は職員が季節や好みを考えながら支援している。訪問理容院により好みのヘアスタイルにして貰っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が一緒に食事作り、盛り付け、配膳を行っている。食後は食器拭き、片付けも行っている。得意分野でお手伝いをするにより、様々な良い効果がでている。	調理は職員が利用者の協力を得て作っている。食材は地元の商店が配達している。献立は栄養士がメニューを作っている。会話も楽しく、畑で採れたゆずも使っている。食器は各自好みのものを使用している。職員も一緒に食事している。回転寿司などの外食も楽しんでいる。誕生日にはケーキなど好みのもを食べている。訪問日の食事の種類が多く美味しかった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士によるバランスの良い献立をもとに、一人ひとりの摂取量を職員が把握している。制限のある方は毎回計量している。摂取量が少ない方は医師に相談しながら支援している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎週火曜日に歯科衛生士による口腔ケアを行っている。職員も歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けている。毎食後に職員が歯磨きの見守り、介助をしている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄の記録をもとに、それぞれの排泄パターンを把握し、トイレの声かけを行い、リハビリパンツ、尿とりパッドを使用している。トイレでの自然な排泄ができるように支援している。</p>	<p>尿失禁が一時的なものかどうかを判断してリハビリパンツを使用している。現在、使用している方は3~4名である。退院されて事業所に入居後、トイレ排泄が可能になった方がいる。トイレのドアにドレスタオルが掛けられ、分かりやすい。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の原因で不穏になられたり、具合が悪くなる事を職員が理解している。水分コントロール、散歩や体操とそれぞれの方に合わせた対応をしている。医師より困難な時は薬を処方している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一日おきの予定があるが本人の気持ちを大切に、希望にあわせて入浴出来るようにしている。入浴拒否の強い方には無理じいはせず、気持ち良くはっていただけよう努力している。</p>	<p>基本は1日おきだが、毎日入りたい方、夕食後、寝る前に入る方にも20時までは対応している。入浴したくない方には、明日は往診だからなどと声かけに工夫している。ゆず湯や菖蒲湯なども楽しんでいる。脱衣所は暖房してあり、一人で入りたい方にはさりげなく見守りしている。職員は常に利用者の衛生、特に臭いに気を付けて清潔に心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中は出来る限り、お手伝い、入居者同士のおしゃべり、散歩、余暇支援をすることが夜間の良眠にあわせ、居室で休息したり、昼寝をしたりしている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬している薬のことががすぐ分かるように薬情書、また与薬時の誤薬の防止のための服薬管理表がすぐみられるようにしてあり、薬の変更、増減、中止などがある時は連絡ノート、引継により徹底している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>			
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>季節や入居者の希望にあわせ毎月外出行事を行っている。図書館、美容院（パーマ、毛染め）はご家族に協力して頂いている。友人との外出もある。</p>	<p>散歩は毎日午前と午後に、車いすの方も参加して実施している。近くの公園や、神社、駅まで行くこともある。事業所内の敷地は遊歩道になっており、四季折々の花が植えられて良い散歩道になっている。ズーラシア動物園や、回転寿司に行くこともある。地下鉄を乗換利用してせせらぎ公園、ショッピングセンターなどにも出かける。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>認知症であることによる、金銭トラブル、妄想等の出現もあり、金銭は預からざるを得ない。ご本人には家族が預っていることを納得して貰っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の場合はご家族と相談の上で、掛けたいと言われた時にホームから家族、友人に電話をしてかけていただいている。自分で描かれた絵手紙を友人、家族に出している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要の無い音（誰も見ていないTV）職員同士の大きな声、程よい明るさなどの環境を大事にしている。季節ごとのディスプレイは入居者も参加しながら楽しんでいる。	天井は高く、廊下は広く、居室も広めで、各部屋から四季の花が眺められる。管理者が利用者の声を集めて作詞し、利用者家族が作曲したホームの歌の歌詞が貼られており、利用者や家族が歌っていた。壁には、利用者の今年の目標が習字で書かれ、行事の写真、さらには地域の方や家族から頂いた雛人形が飾られ、季節感があふれていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ置いてあり入居者同士が楽しく過ごしている。一人になれる空間にもなっている。入居者同士お互いの居室を訪れてコミュニケーションをとっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、お気に入りのカーテンなどそれぞれの入居者が工夫して生活している。	エアコン、レースのカーテン、照明、クローゼットが備え付けられており、利用者は家族の写真、テレビ、整理ダンス、いすなど馴染みのものを持ちこんでいる。居室は広めで日当たりも良く、テラスがあるので気軽に日光浴も楽しめる。職員は常に換気に気を付けている。居室の名札は手作りの飾りである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下とリビング、ダイニングを介してさりげない見守りができるように対面式キッチンにしてあり。食事の盛り付け、配膳、食器拭きなどのお手伝いなどが安心してできる。		

